

第18回先住民族の権利に関する専門家機構（EMRIP）でのフォルカー・トゥルク国連人権高等弁務官の挨拶

2025/07/14

国連人権高等弁務官事務所

「ここ数年、先住民族の権利の尊重を促進する重要な進展があった。先住民族のアプローチや世界観に対する認識も高まっている。ちょうど2週間前、生態系を保護・修復する国家の義務に関する[勧告的意見](#)において、米州人権裁判所は、国家が先住民族の知識を尊重しなければならないと明確に指摘した。一方、先住民族に対する権利侵害は依然として起こっている。先住民族の同意なしに、採掘活動、森林伐採、大規模農業によって土地や領地が開拓、破壊されている。また、先住民族は気候変動の影響を受けやすい。干ばつ、洪水、森林破壊、山火事が、数千年にわたって先住民族を支えてきた生態系を破壊している。さらに先住民族は司法、健康、教育、その他サービスへのアクセスにおいて、差別に直面している。先住民族の人権擁護家たちは、脅迫や報復に晒され続けている。人工知能（AI）を含むデジタル技術は、先住民族にも影響を及ぼしており、先住民族データの使用を含めAIが先住民族に与える影響を私の事務所では調査している。本日提出される先住民族の権利に関する専門家機構の研究には、先住民族のデータに関する権利を保護するための重要な勧告が含まれている。特に、AIは先住民族のデータ主権を先住民族の自決と自治の要素として尊重しなければならないと強調している。気候変動対策、デジタル技術の開発、その他の関連する政策や決定が、先住民族の知恵と経験を反映するよう、私たちは一致団結しなくてはならない」。

【記事全文】

[HC Türk: “Wisdom and experience of Indigenous Peoples hold important lessons for all.”](#)